


## 監事監査報告書

2019 年度第 4 回監事監査結果につきまして次のとおり報告いたします。

監 事 藤山 勝光 

監 事 曾場 利夫 

監査日時 令和 2 年 3 月 10 日(火曜日) 13 時 3 0 分～17 時 30 分

監査場所 法人研修センター 2 階研修室

監査監事 藤山 勝光  
曾場 利夫

- 監査内容
- I 2019 年度第 3・四半期の法人の事業運営状況
    - 理事会・評議員会の開催状況
    - 役員・職員の研修の実施状況
    - 各種会議の開催実施状況
    - 各種委員会等の開催実施状況
  - II 2019 年度第 3・四半期年度の各施設・事業所の事業運営状況
    - 職員の状況
    - 職員研修の実施状況
    - 職員会議の実施状況
    - 利用者の状況
    - 利用者等からの苦情受付の状況
    - 利用者に係る事故の発生状況
    - 利用者の余暇活動・行事等の実施状況
  - III 2019 年度第 3・四半期の予算執行及び財務状況について
  - IV 指導監査並びに実地指導の結果通知の確認
  - V 預り金管理サービスの管理状況
  - VI その他

同席職員等 阪口理事長 瀬野法人本部事務局長  
白屋法人本部事務局次長 板岡本部事務局次長  
金子大江学園総務部長 加藤銀山学園総務部長  
新田和光学園総務部長

## 監査報告

私たち監事は、2019年度10月1日から12月31日までの2019年度第3・四半期の法人及び各施設の事業運営状況、並びに法人全体の予算の執行状況、預かり金の管理状況について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、法人事務局及び各総務部長に対して、法人並びに各施設・事業所に関する事業の運営状況、予算の執行状況に関する資料の提出を求め、必要に応じて説明を求めました。また、預かり金管理においては、利用者の預金通帳及び出納帳等について閲覧し照合しました。

以上の方法に基づき、当該期間における事業の運営状況並びに予算の執行状況について検討しました。

### 2. 監査意見

■この間には理事会が2回、臨時評議員会が1回開催されております。理事会、評議員会の開催とも定款の定めにより適正に実施されております。理事評議員の出席も95%を超える出席率となっていることを確認いたしました。また、新たな就労支援施設建設に係る入札が10月25日に執行されました。監事二名も入札に立ち合い、適正に執行されたことを確認しました。

■法人の研修においては、11月21日に第三者委員の研修会が実施されています。研修の中では仁木地区・小樽地区毎に第三者委員が利用者並びに職員に対する聞き取りが行われたとの報告を受けております。第三者の目を通して事業の見直しを行うことは非常に重要です。研修の内容を充実させるとともに第三者の意見を取り入れて事業計画に反映させる等、今後の取組に期待いたします。

■法人内の会議や委員会においては、国の『働き方改革』の流れ等を受けまして、給与並びに就業に係る検討チームが組織化されて精力的に検討が重ねられております。専門家の助言を受けながら、ほぼ成案を得るに至ったとのこと。職員に対する説明も順次行われておりますが、規定の改定をもって今後は職員の処遇の改善と人材確保、資質の向上にいかに関与させるのが課題となってくるものと思われます。

■事業の運営状況では相談支援事業について確認を行いました。相談支援事業所〔さばーとひろば〕は6名の職員体制で、12月末の利用登録者が476名、同月の相談件数が377件に上っています。登録者の約6割は知的障がい者が占め、精神障害と発達障害で約25%、身体障がい者が約1割という状況で

す。相談内容は、「サービス利用」の他、「生活」や「健康・医療」など多岐にわたっています。相談内容の項目に明確に分類できない「その他」が7割を占めていることから多様な生活ニーズに事業所として対応していることがうかがえました。[相談支援センターにき]においては職員が3名で、同月末229名の登録。障害別では知的障がいが約8割を占めていますが、身体障がいや重症心身障がい、高次脳機能障がいを持つ登録者もいる状況です。当事業所においても「サービス利用」や「計画相談」の相談が約半数を占めますが、その他に「生活」・「健康・医療」の相談が3割に上っています。両事業所とも地区の障がいを持つ人たちの生活を支える機能を発揮しながら、支援協議会等で中核的役割を果たしているとのこと。法人が実践する地域福祉活動を正に体现しているものと評価するところです。

■12月末現在の貸借対照表の主たる財務指標を見ますと、流動資産比率が前年同期比で1.21%上昇しています。これは、営業収益が前年度より増収になっていることによると分析されます。同時に総負債比率、流動負債比率とも前年同期より0.5%ほど上昇しています。借入金を主体とする施設整備により固定負債の割合が年々上昇していますが、当年度も新たな就労支援施設の整備により借入を実行する予定であることから、総負債比率の上昇は避けられないものとみられます。新規の資金借入においては償還期間を長期に設定して、短期の資金ショートを来さないように配慮が必要であることを指摘します。

■資金収支においては、12月末現在(標準執行率75.00%)で、事業活動収入が予算比74.78%、支出が77.86%と支出超過の状況です。事業支出においては既に予算額を超過している科目もあり、年度末に向けて所要の補正を要する状況にあります。

■事業活動収支計算(損益計算)では、事業活動収支利益率(営業利益率)が昨年同期比1%増の3.57%、経常利益率が同期比0.44%増の4.41%、当期利益率が同期比0.95%増の4.35%となっています。地区別施設・事業所の営業利益率(法人本部・公益事業を除く)は仁木地区4.92%、小樽地区6.91%となっています。

■流動資産並びに負債の仮勘定については、毎月ごと明細書を作成しているとのことですが、記載の内容を詳細にすることで確実に処理するよう検討下さい。

■昨年11月18日に相談支援センターにきに対する実地指導が、12月20日には大江学園に対する指導監査が後志総合振興局社会福祉課により実施されております。監査においては、その指摘事項の内容について確認しまし

た。今回の理事会に指摘事項に対する改善措置の内容が提出されておりますのでご検討をお願いします。

■避難訓練については各施設・事業所において適時、実施されております。グループホームにおいては、世話人の異動や新たな住居への利用者の移動等を考慮して実施するよう検討願います。

■利用者の預かり金管理は適正に執行されていることを確認しました。

■職員採用の状況について説明を受けました。小樽市全戸に対する求人案内を郵送する等の結果、当面の職員数が確保されたことを確認しています。

■その他、法人組織及び事業の管理運営状況において諸規則に違反する事実は認められませんでした。